

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ うせ え いしゆよ、 イウ デ ヤ の ひ と は か を
 救 世 主 人 墓
 ふ うじ て 、 へ い そ つ なんぢ の い さ ぎ よ き み を
 封 兵 卒 爾 潔 軀
 ま も る と き 、 なんぢ は み っ か め に ふ く か つ
 守 時 爾 三 日 目 復 活
 し て 、 せ か い に い の ち を た ま え り 。
 世 界 生 命 賜
 ゆ え に て ん ぐ ん は なんぢ の ち を ほ ど こ す の
 故 天 軍 爾 生 命 施
 し ゆ に よ べ り 、 ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は
 主 呼 光 榮
 なんぢ の ふ く か つ に き し 、 こ お う え い は なんぢ
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む
 國 歸 獨 人 慈
 し ゆ よ 、 こ う え い は なんぢ の お も ん ぱ か り に
 主 光 榮 爾 慮
 き す 。

【 日本の巫使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゆ う
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリスト スのえきしゃ、せい
 實 神智 役者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教 聖

よ、なんちのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいために、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
 光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒 聖 我

くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
 光 暖 流 爾 敵
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか
 屬 神 子 爲 あ し、 彼 等 神
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
 恩 寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 あ え、 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよに、アミン
 今 何 時 世 世
 しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう
 主 宰 爾 神 因 光



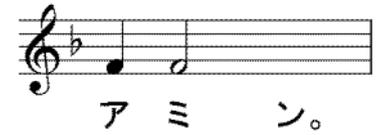
えいのうちに はかよりふくかつし、せせ
栄中墓復活、世世
かいをもとにもふくかつせしめたまえり。
かいをもとにもふくかつせしめたまえり。
ひとのせいは なんぢをかみとしてほめう
人 性 爾 神 讃 歌
たい、しはほろぼされ、アダムはたのし
死 滅 樂
み、エヴァはいま なわめよりとかれ
今 縛 釋
てよろこびてよぶ、ハリストスよ、なんぢ
観 呼 爾
はしゅうじんに ふくかつをたもうしゆなり。
衆 人 復 活 賜 主

司祭) (黙誦： ^{せい}聖なる神、^{かみ}聖者の中に^{せいじゃ}息い、^{うち}セラフィムより^{いこ}聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{さんえい}ヘルヴィムより^{ことごと}讃榮せられ、^{てんぐん}悉くの天軍より^{ふくはい}伏拜せられ、^{ばんぶつ}萬物を^む無より^{ゆう}有と
^{ひと}なし、^{なんぢ}人を^{ぞう}爾の^{しょう}像と^よ肖とに依りて造り、^{つく}爾が^{なんぢ}諸の^{もろもろ}賜を以て之を飾り、
^{ねが}願う者に^{ちえ}智慧と^{めいご}明悟とを^{あた}與え、^{つみ}罪を行^{おこな}う者を^{もの}棄てずして、^す其救の爲に^{そのすくい}痛悔
^たを立て、^{われらいや}我等卑しくして^{ふとう}不當なる^{なんぢ}爾の^{しょぼく}諸僕を、^こ此の時に^{とき}於ても、^{おい}爾が^{なんぢ}聖な
^{さいだん}る祭壇の^{こうえい}光榮の前に^{まえ}立ちて、^{なんぢ}爾に^{とうぜん}當然の^{ふくはいさんえい}伏拜讃榮を^{たてまつ}奉るに^た堪うる者と
^{しゅさい}なしし主宰よ、^{なんぢみづか}爾親ら^{われら}我等^{ざいにん}罪人の^{くち}口よりも^{せいさん}聖三の^{うた}歌を受け、^う爾の^{なんぢ}仁慈を
^{もつ}以て我等に^{われら}臨み、^{のぞ}我等に^{われら}凡そ^{およ}自由と^{じゆう}自由ならざる^{じゆう}罪を^{つみ}赦し、^{ゆる}我が^わ靈と^{たましい}體と
^{せい}を^{われら}聖にし、^{しょうがいぜんこう}我等に^{もつ}生涯善功を以て^{なんぢ}爾に^{つと}務むるを^え得せしめ^{たま}給え、^{せい}聖なる^{しょう}生

しんぢょ こせい なんぢ よろこび な しよせいじん きとう よ
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ
蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖
じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇 毅 聖
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇 毅
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐
れめよ。こうえいはちちとこせいしん
光 榮 父 子 聖 神
にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸 今 何時 世 世

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 聖 神 聖 勇
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 毅 聖 常 生 者 我 等
 あわれめよ。
 憐

【 プロキメン 提綱 主日 第1調 】

司祭) つつし 慎みて聴くべし、しゅうじん へいあん 衆人に平安、

誦經) なんぢ しん 爾の神にも、

司祭) えいち 睿智

誦經) しゅ われらなんぢ たの ごと なんぢ あわれみ われら た たま プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如
 なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

誦經) ぎじん しゅ ため よろこ さんえい ぎしゃ かな 義人よ、主の爲に喜べ、讚榮するは義者に適う、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如

なんぢのあわれみ を われら に た あ れ えた あ ま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え。

誦經) ^{しゅ われらなんぢ たの ごと} 主よ、我等爾を頼むが如く、

なんぢのあわれみ を われら に た あ れ えた あ ま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え。

【 アポストロス 使徒經 258 端 コロサイ書 3 章 12 節～16 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ しょ よみ} 聖使徒パウエルがコロサイ人に達する書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい なんぢらかみ えらび こうむ せい あい もの じひ じんあい けんそん} 兄弟よ、爾等神の選を蒙りし、聖にして愛せらるる者として、慈悲、仁愛、謙遜、

^{おんじゅう ごうにん き も たがい せ こと あいじよ あいゆる なんぢら} 溫柔、恒忍を衣よ、若し互に責むべき事あらば、相恕し、相赦せ、ハリストスの爾等

^{ゆる ごと なんぢら か ごと およ これら うえ あい き こ かんび そうこう} を赦しし如く、爾等も此くの如くせよ、凡そ此等の上に愛を衣よ、是れ完備の總綱なり。

^{かつかみ へいあん なんぢら うち つかさ なんぢら いったい おい これ め なんぢらまた} 且神の平安は爾等の中に幸たるべし、爾等は一體に於て之に召されたり、爾等又

^{おん かん ことば ゆたか なんぢら うち お およそ ちえ もつ あいおし} 恩に感ぜよ。ハリストスの言は豊に爾等の中に居るべし、凡の智慧を以て相誨え、

^{あいまし せいえい かしょう ぞくしん しふ もつ おんちよう よ なんぢら ころろ わ しゅ} 相倣め、聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、恩寵に由りて爾等の心に和して、主

^{さんび} を讚美せよ。

(比較用 口語訳) 兄弟よ、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったの

は、このためでもある。いつも感謝していなさい。キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) ^{なんぢ へいあん} 爾に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{ねが わ ため あだ かえ われ しよみん したが かみ さんしょう} 願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讃頌せられん、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ} 大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世々に

^{た もの われなんぢ な うた} 垂るる者よ、我爾の名に歌わん、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

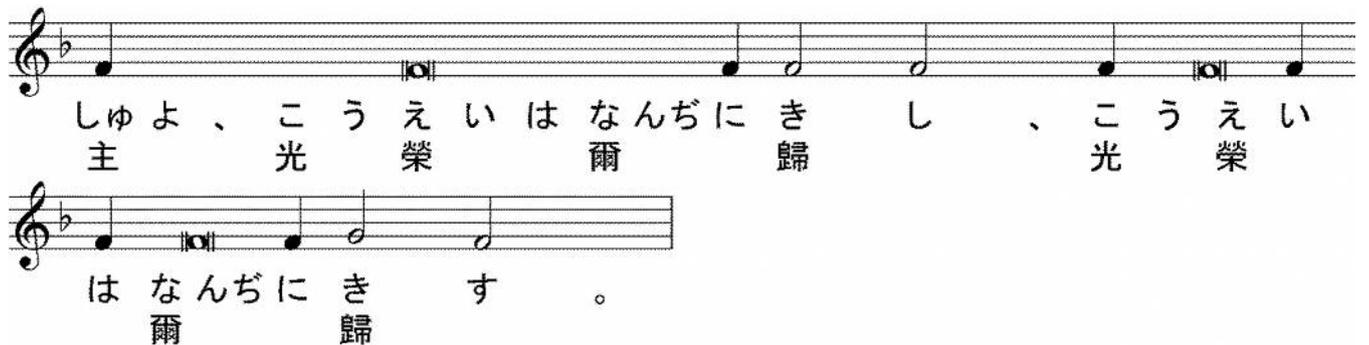
司祭) (黙誦：人^{ひと}を愛^{あい}する主^{しゅ}宰^{さい}よ、我が心^{こころ}に神^{かみ}を知る智慧^{しちえ}の^い淨^いき光^きを輝^{ひかり}かし、我が思^し念^{ねん}の目^めを啓^{ひら}きて、爾^{なんぢ}が福^{ふく}音^{いん}の教^{おしえ}を悟^{さと}らしめ給^{たま}え、我が衷^{うち}に爾^{なんぢ}の福^{ふく}たる^{いましめ}誠^{まこと}を畏^{おそ}るる^{おそれ}畏^いをも入^{われら}れて、我等^{ことごと}が悉^{にくたい}く^{よく}の肉^ふ體^{およ}の慾^{なんぢ}を踏^{よろこ}み、凡^{ところ}そ爾^{おも}の喜^かぶ^{おこな}ぶ^{ぞくしん}所^{せい}を思^{かつ}い^す且^{いた}つ^{たま}行^{けだし}いて、属^{かみ}神^{しん}の生^{せい}活^{かつ}を過^すぐる^{いた}を致^{たま}させ^{けだし}給^{かみ}え、蓋^{かみ}ハリストス神^{しん}よ、爾^{なんぢ}は我が^わ靈^{たましい}と體^{からだ}との光^{こう}照^{しょう}なり、我等^{われら}爾^{なんぢ}と爾^{なんぢ}の無^{むげん}原^{ちち}の父^{しせい}と至^し聖^{せい}至^し善^{ぜん}にして生^{いのち}命^{ほどこ}を施^{なんぢ}す^{しん}爾^{しん}の神^{こうえい}とに光^{けん}榮^{けん}を獻^{いま}ず、今^{いつ}も何^よ時^よも世^よ世^よに、アミン。)

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書91端 18章18~27節 】

司祭) 睿^{えいち}智^{つし}、肅^たみて立^{せい}て聖^{ふく}福^{いん}音^{けい}經^きを聴^{しゅう}く^{じん}べし、衆^{へい}人^{あん}に平^{へい}安^{あん}、



司祭) ルカ傳^{でん}の聖^{せい}福^{ふく}音^{いん}經^{けい}の讀^{よみ}、



司祭) 謹^{つし}みて聴^きくべし、彼^かの時^{とき}或^{ある}人^{ひと}イイススに就^つき、彼^{かれ}を試^{こころ}みて、問^といて曰^いえり、善^{ぜん}なる師^しよ、

我^{われ}永^{えい}遠^{えん}の生^{いのち}命^つを嗣^{ため}がん^な爲^なに何^なを爲^なすべきか。イイスス彼^{かれ}に謂^いえり、爾^{なんぢ}は何^{なん}ぞ我^{われ}を善^{ぜん}と
 稱^{とな}うる、獨^{ひとり}神^{かみ}より外^{ほか}に善^{ぜん}なる者^{もの}なし。爾^{なんぢ}は誠^{いましめ}を識^しれり、淫^{いん}する母^{なか}れ、殺^{ころ}す母^{なか}れ、
 竊^{ぬす}む母^{なか}れ、妄^{もう}證^{しょう}する母^{なか}れ、爾^{なんぢ}の父^ふ母^ぼを敬^うえ。彼^{かれ}曰^いえり、我^{われ}幼^いきより皆^{みな}之^{これ}を守^{まも}れ
 り。イイスス之^{これ}を聞^ききて、彼^{かれ}に謂^いえり、爾^{なんぢ}に猶^{なほ}一^{ひとつ}の足^たらざる事^{こと}あり、悉^{ことごと}く爾^{なんぢ}の所^{しよ}有^{ゆう}
 を售^うりて、貧^{ひん}者^{しゃ}に施^{ほどこ}せ、然^{しか}らば財^{たから}を天^{てん}に有^{たも}たん、且^{かつ}來^{きた}りて我^{われ}に從^{したが}え。彼^{かれ}之^{これ}を聞^き
 て、甚^{はなは}だうれ^れたり、巨^{おおい}に富^とめる故^{ゆえ}なり。イイスス其^{その}甚^{はなは}だうれ^れたるを^みて曰^いえり、富^{とみ}を有^{たも}
 つ者^{もの}の神^{かみ}の國^{くに}に入る^いは難^{かた}き哉^{かな}。蓋^{けだし}駱^{ろく}駝^だが針^{はり}の孔^{あな}を穿^{とお}るは、富^とめる者^{もの}が神^{かみ}の國^{くに}に入る^い

やす これ き ものい しか だれ よ すく きれい ひと よく ところ
より易し。之を聞きし者曰えり、然らば誰か能く救われん。彼曰えり、人には能せざる所、

かみ よく
神には能すなり。

(比較用 口語訳) ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましようか」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりで、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい」。彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮
はなんぢにきす。
爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ